

## 18 年度 Q4 決算説明会 質疑応答要約

**Q) 第 4 四半期の LBP の本体販売数量が大きく落ちている (▲16%) 要因は何か?**

A) 販売数量の減少の主な要因は以下のとおり。

- ・OEM 供給の数量減 ▲5%
- ・採算性の低いモデルの販売数量の絞り込み ▲4%
- ・中国などにおける在庫調整 ▲2%

**Q) 在庫が増加しているが、プリンティング事業の販売減速による影響なのか?**

A) 前年度末との比較で在庫が 116 億円増加しているが、そのうち 30 億円はドミノ事業における増加。増加の要因には、Brexit に備えた在庫の積み増しも含まれている。

残りは主に P&S 事業における増加だが、これは販売減速によるものではなく、生産活動の平準化を進めたことに伴い、平均的な在庫水準を引き上げたことによるものが大きい。

**Q) 19 年度のインクジェットプリンターの消耗品売上が大きく減少 (▲7%) する見通しになっているが、これは大容量モデルの増加に伴い、カートリッジモデルの販売が減少するということか?**

A) 大容量モデル増加の影響というよりも、従来型のカートリッジモデルの消耗品販売の減少を想定している。マクロ環境の不透明感を考慮すると消耗品販売の見通しについては慎重にならざるを得ないこともあり、少し保守的な計画となっている部分はあるかもしれない。

**Q) 産業機器は下期から回復の前提とのことだが、受注に回復感が出ているのか?**

A) 日工会の統計では、最近回復の兆しが出てきているが、ブラザーの場合はまだハッキリとは分からない。3 月に発表した中期戦略においても、産業機器は注力していく事業として位置づけていることから、下期からの回復には、事業拡大に向けた意気込みが込められている部分が多い。

以上